

# 孤独・孤立対策に関する連絡調整会議

## 議事録

### (開催要領)

1. 開催日時：令和3年3月12日（金）18:30～18:50
2. 場所：官邸4階大会議室
3. 出席者：

加藤 勝信	内閣官房長官
坂本 哲志	孤独・孤立対策担当大臣（議長）
坂井 学	内閣官房副長官
三ッ林 裕巳	内閣府副大臣
赤澤 亮正	内閣府副大臣
新谷 正義	総務副大臣
田所 嘉徳	法務副大臣
鷺尾 英一郎	外務副大臣
伊藤 渉	財務副大臣
丹羽 秀樹	文部科学副大臣
三原 じゅん子	厚生労働副大臣
宮内 秀樹	農林水産副大臣
長坂 康正	経済産業副大臣
大西 英男	国土交通副大臣
堀内 詔子	環境副大臣
中山 泰秀	防衛副大臣
吉川 赳	復興大臣政務官
中村 格	警察庁次長

### (議事次第)

1. 開会
2. 趣旨説明
3. 意見交換
4. 閉会

### (配布資料)

- 資料1 孤独・孤立対策に関する連絡調整会議の開催について  
資料2 ソーシャルメディアの活用に関するタスクフォースについて

- 資料3 孤独・孤立の実態把握に関するタスクフォースについて
  - 資料4 孤独・孤立関係団体の連携支援に関するタスクフォースについて
  - 資料5 各府省庁提出資料
- 参考資料

○三ッ林内閣府副大臣 ただいまから、「孤独・孤立対策に関する連絡調整会議」を開催いたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日の司会を務めさせていただきます、孤独・孤立を担当する内閣府副大臣の三ッ林です。

初めに、加藤官房長官より御挨拶をいただきます。

○加藤内閣官房長官 連絡調整会議の開催に当たり、私からお願い事をさせていただきたいと思います。

社会的な孤独・孤立の問題は、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中で、一層その深刻さを増しているところでもあります。この問題に対してこれまで各省庁において様々な支援に取り組んでいただいておりますが、総合的な対策を政府一体となって早急に推進する必要があることから、先般、総理より坂本大臣を孤独・孤立対策担当大臣に指名し、坂本大臣の下で担当室も設置をしたところでもあります。

また、先月25日に、孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための緊急フォーラムを開催し、総理をはじめ、私も参加いたしてきました。そこでの議論を通じて、改めてこの問題には「つながり」が重要なキーワードであることを実感したところでもあります。

孤独・孤立の問題に関しては、NPOをはじめ、官民の様々な団体が地域等において相談事業などの活動を行っております。こうした相談事業を一層充実するとともに、支援団体が活用しやすくなるよう、官民あるいは民民のネットワークなどのつながりをより強くしていくことにより、必要な支援が一層的確に必要とする方々に届くようにしていけるのではないかと考えております。

また、先日の緊急フォーラムでの御意見において、支援を届けるためにはまずは孤独・孤立の実態を把握することが不可欠であると考えております。こうした現場の課題、関係者の意見をしっかり受け止め、関係省庁が連携して取り組んでいっていただくことが重要であります。

孤独・孤立対策の推進のため、この会議の下、出席者、皆さんが、坂本大臣の下、一丸となって取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

○三ッ林内閣府副大臣 ありがとうございます。

次に、坂本孤独・孤立対策担当大臣より挨拶及び趣旨説明をお願いいたします。

○坂本孤独・孤立対策担当大臣 皆様、お疲れでございます。

第1回目の孤独・孤立対策に関する連絡調整会議の開催に当たりまして、御挨拶を申し上げます。

先般、菅総理から、「一つ一つ問題を洗い出し、各省庁と調整をしながら総合的な対策を進めるように」との指示をいただきました。

各省庁の施策は、人々の生活に関わるものである限り、孤独・孤立の問題とは無関係ではありません。いま一度、そのような視点で、自らの担当省庁の施策を見ていただきたい。そして、単なる連絡や調整をするのではなくて、全政府を挙げてこの課題に対応していきたい。そのような意味で、本日、私を議長といたしまして、全省庁の副大臣を構成員とする会議を開催することといたしました。

孤独・孤立担当大臣の任命、孤独・孤立対策担当室の立ち上げは、海外メディアでも広く取り上げられています。コロナ禍が世界を覆う中、孤独・孤立対策として日本は何ができるかが世界から注目されています。

本日から開始する当面の取組の柱について、私から申し上げます。具体的には、3つのタスクフォースを立ち上げたいと思います。

第1に、ソーシャルメディアの活用に関するタスクフォースです。様々な支援があることを孤独・孤立に悩み苦しむ人々に知ってもらいたい。その支援を届けるために、ソーシャルメディアとの連携を進めていきます。孤独・孤立の問題や自殺防止対策に対応していく観点から、効果的な方策を提示するための検討を行います。

第2に、実態把握に関するタスクフォースです。孤独・孤立の実態を把握し、各行政分野において関連施策のPDCAを確立することが不可欠です。また、その前提として、「孤独」「孤立」をどう捉えるのかについても一定の整理が必要です。そこで、この問題に詳しい有識者や関連する統計を作成している省庁で構成するタスクフォースを編成し、検討を行います。

第3に、NPO等の団体の連携支援に関するタスクフォースです。支援を実施している団体が、手続の簡素化など、より活動しやすくなるようにするとともに、様々な活動・支援に対し、より一層連携を深めていく必要があります。このため、関係省庁で構成するタスクフォースを編成し、学識経験者やNPO等の団体との意見交換等を行い、連携支援の取組を深化させていきたいと思います。

タスクフォースには、スピード感を持って検討を進めてもらいたいと考えております。

このほか、広報の在り方についても、今後、戦略的に検討を進めていきたいと考えています。

そして、今後の孤独・孤立政策の進め方について報告いたします。

先週、新型コロナ対策本部における総理の御発言を受け、現在、相談支援団体や全国的な団体を含む生活困窮者等への支援団体へのさらなる支援を検討しています。

また、先日の緊急フォーラムや与党、関係省庁の御意見等を踏まえて、先ほど挙げました当面の取組の柱を含め、課題や方向性を整理し、その過程で早急に実施するものは実施

していきたいと考えております。

さらに、6月の骨太の方針に施策を盛り込めるよう、孤独・孤立の実態把握、「つながり」による予防、相談などの孤独・孤立に陥った方への支援、支援情報の提供等について、進め方を含めて政策を整理し、孤独・孤立対策をまとめていきたいと考えています。

孤独・孤立対策は、個人の心に関わる問題であり、役所的な発想ではなく、民間の発想・知恵も借りながら考えていく必要があります。各副大臣におかれましては、各省庁における政策立案の責任者として、省庁の先頭に立っていただき、どうしたら担当分野を通じ、孤独・孤立対策を進められるか知恵を出していただくとともに、施策を形にしていきたいと思います。

現代の社会問題とも言うべき孤独・孤立の問題に立ち向かい、必要とする方々に支援をより一層的確に届けられるようにしたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

○三ッ林内閣府副大臣 ありがとうございます。

それでは、プレスの方は御退室をお願いいたします。

(報道関係者退室)

○三ッ林内閣府副大臣 次に、関係各省の副大臣等から御発言いただきます。

初めに、内閣府副大臣として私から発言いたします。

今般のコロナ禍の中で、困難な状況にある子供たちが社会的に孤立して必要な支援が受けられず、一層困難な状況に置かれることを防ぐことが重要です。

内閣府では、「子供の未来応援基金」及び「地域子供の未来応援交付金」により、子供たちの居場所づくりなどに取り組むNPO等や地方公共団体の支援を進めてまいります。

また、困難な状況にある子供・若者に対して地域の様々な機関が連携して支援を行う地域ネットワークの形成や、子供・若者に関する相談にワンストップで応じる相談センターの整備を推進しているほか、地域での相談業務やアウトリーチに従事する職員に対する研修等を実施しています。

さらに、孤独・孤立の顕在化などを踏まえた、第3次となる新たな「子供・若者育成支援推進大綱」を今月末を目途に策定し、政府における子供・若者の育成支援の基本的な方向性や施策等を示してまいります。

また、今般のコロナ禍では、非正規雇用労働者を中心に女性の雇用者数の大幅な減少、DVの相談件数増加、女性の自殺者数増加など、女性が雇用や生活面でとりわけ大きな影響を受けています。

内閣府では、「コロナ禍の女性への影響と課題に関する研究会」を立ち上げ、その影響の調査や政策課題の把握に取り組んでおります。DV等の被害者支援の強化などを進めるとともに、コロナ禍で大変な思いをされている女性を誰一人取り残さないという観点から、関係省庁と連携してしっかりと対応を進めてまいります。

孤独・孤立の状況にある方は、周りに相談ができず、消費者被害の拡大に結びつきやす

いという特徴があります。このため、地域の消費生活センターが、福祉部局、警察、民間事業者などと連携した見守り活動を行う「見守りネットワーク」について、関係省庁との連携を深め、一層の設置促進を図ってまいります。

また、生活困窮者支援として期待されるフードバンク活動について、食品ロス削減関連施策の取りまとめ役として、関係省庁と連携しつつ、しっかり支援してまいります。

以上であります。

続いて、丹羽文科副大臣、お願いいたします。

○丹羽文部科学副大臣 文部科学省でございます。

不安を抱える児童生徒、学生等への支援や学習機会の確保の観点から、孤独・孤立対策に関連する取組と課題について御説明申し上げます。

まず、初等中等教育において、自殺防止や不登校児童生徒への支援の取組などを行っております。相談体制の充実といたしまして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実、SNS等を活用した相談事業や24時間子供SOSダイヤルの設置、児童生徒の自殺等対策といたしまして、SOSの出し方に関する教育を含めた自殺予防教育の推進、児童が抱える悩みや困難の早期発見等の推進などを実施いたしております。

現状における課題といたしましては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置充実等の相談体制のさらなる充実や、ICTを活用いたしました効果的な自殺対策等の検討、また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた自殺の原因分析や適切な対応等の検証が必要であることなどが挙げられます。

次に、高等教育での取組といたしましては、学生の学びの継続のための支援といたしまして、各大学に対して、相談体制の整備等の徹底の依頼や新型コロナウイルスにより経済的な影響を受けている学生への支援、大学等に対する学生に寄り添った対応の要請といたしまして、十分な感染症対策を講じた上での対面授業の実施や学内施設の開放の要請をいたしております。学生に寄り添う好事例の収集・展開などを実施いたしております。

一方で、遠隔授業が中心で対面授業の機会が少ないなど、人的交流が十分できていないという学生からの声なども上がっております。学生への支援につきまして、学生の声を直接把握し、学生の目線に立った対応を講じていく必要があると考えております。

児童生徒や学生等が多様な「つながり」の中で支えられ、また、お互いに支え合いながら生きていけるよう、文部科学省としても引き続き取組を進めてまいります。

以上でございます。

○三ツ林内閣府副大臣 ありがとうございました。

続いて、三原厚生労働副大臣、お願いいたします。

○三原厚生労働副大臣 厚生労働省でございます。

コロナ禍により、女性、非正規労働者、単身の高齢者、ひとり親など、様々な方々の中で、孤独・孤立が深刻化していると承知しており、生きづらさ、様々な悩みを抱える方々への支援とともに、人と人との「つながり」を再構築していくことが重要であると考えて

おります。

厚生労働省では、新型コロナウイルス感染症対応として、これまでの取組に加え、生活困窮者自立支援における支援者の加配やICT活用等を通じた相談支援体制の強化、SNSの活用等を含めた相談支援体制の強化などによる自殺防止対策、高齢者の通いの場の継続・再開などによる高齢者の介護予防・見守り、子ども食堂等の支援を行う民間団体等による子供の見守り体制の強化など、孤独・孤立防止に関連する取組を行ってまいりました。

今後、民間団体とさらに連携を図りながら、これまでのつながり構築に向けた取組を一層推進するとともに、コロナ禍で増加している子供や女性の自殺防止への取組を一層強化するなど、対策を進めてまいりたいと思います。

以上です。

○三ツ林内閣府副大臣 ありがとうございました。

続いて、中山防衛副大臣、お願いいたします。

○中山防衛副大臣 防衛副大臣の中山泰秀です。

今回、この連絡協議会のメンバーに加えていただき、また、本日は発言の機会もいただきまして、ありがとうございます。

防衛省・自衛隊では、自衛隊員の自殺事故防止やメンタルヘルスといった観点での施策を行っているところです。御案内のように、自衛隊、特にそのうちの自衛官は、一般の社会と比較して、年齢構成的には若年層の割合が高く、また、性別についても男性が多いといった組織の特性がございます。

実際に、平成31年4月には、部外の専門家の方と意見交換を実施した際に、「自衛官は、一般の方と比較し、困ったときに助けを求める態度に出られないのではないか」という組織特性に着眼した御指摘もいただいております。

このような御指摘も踏まえまして、防衛省・自衛隊では、令和元年の秋のメンタルヘルス施策強化期間から、苦しいときに助けを求めることは能力である、援助を望み、求める、援助希求ができる人ほど自己管理能力が高いということを認識させる教育を始めております。

さらに、カウンセリングに対する心理的な抵抗を減らすため、隊員に対し、実際にカウンセリングを体験させるという取組とともに、若年層のコミュニケーションの主流となっているLINEを活用した相談の受付といった対策も講じてきているところです。

このように、防衛省・自衛隊では、組織の特性を踏まえたきめ細かな対策を取ってきておりますので、これまでに培った知見等をこの場での議論に提供していければと考えておりますのと同時に、この場での議論の成果を省内に持ち帰り、検討にまた反映させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○三ツ林内閣府副大臣 ありがとうございました。

続いて、堀内環境副大臣、お願いいたします。

○堀内環境副大臣 環境省です。

環境省では、食品ロス削減対策の一つとして、フードドライブを推進しております。

フードドライブとは、家庭で余っている食品を寄附してもらい、フードバンク等の団体を通じて福祉施設等に提供する活動で、近年、拡大しています。

課題としては、寄附された食品の配送や分配作業に苦勞しているとの声があることなどが挙げられます。

しかしながら、この活動を推進することは、生活困窮者の支援につながるため、引き続きフードドライブを推進してまいります。

以上です。

○三ッ林内閣府副大臣 ありがとうございます。

続いて、吉川復興大臣政務官、お願いいたします。

○吉川復興大臣政務官 昨日で発災から10年を迎えた東日本大震災でございますが、震災関連死という問題と向き合ってきた復興庁としては、孤独・孤立対策はとても重要な問題だと認識しております。その中で、仮設住宅、災害公営住宅など、新たな環境におけるコミュニティづくりや見守り、心の復興など、自治体の取組を支援しております。

これらの問題は、近年、各地でコミュニティの脆弱化といった問題との共通点があり、その点を踏まえまして、復興庁としても、今後、しっかり取り組んでまいりる所存でございます。

なお、私事でございますが、内閣府において孤独・孤立担当大臣の政務官ということでもありますので、先ほどの坂本大臣の御発言のとおり、幅広い分野において、しっかりと、これらの取組、復興庁の今まで事例も参考にしながら取り組んでまいりたいと思います。

以上になります。

○三ッ林内閣府副大臣 ありがとうございます。

最後に、坂本孤独・孤立対策担当大臣より閉会の挨拶をお願いいたします。

○坂本孤独・孤立対策担当大臣 本日は、限られた時間ではありましたが、孤独・孤立対策について、これから連携して進めていく方向性を出席者で共有できたのではないかと考えております。

担当として、就任以来、孤独・孤立の概念について御質問を多くいただきました。好きで孤独にいる人もいるという御意見もあります。冒頭の挨拶でも、孤独・孤立をどう捉えるかについて一定の整理が必要と申し上げましたが、一律の定義を直ちに設定するのは難しいながら、現段階での私なりの理解というものを、ドイツ在住のユダヤ人でナチスによる迫害を受けてアメリカに亡命いたしました政治哲学者のハンナ・アーレントによる「一人であること」の3分類を御紹介しながらお伝えしたいと思います。

1つ目は、solitude（ソリチュード）、「孤独」とも訳される単語ですが、1人になって思考している、言わば思索にふける状態であります。

2つ目は、isolation（アイソレーション）、人と人との間の政治的接触が断ち切られた

状態で、「孤立」と言うべき状態であります。

3つ目は、loneliness（ロンリネス）、全ての者から見捨てられている状態で、「孤独」と言うべき状態であります。アーレントは、solitudeと異なり、lonelinessやisolation、すなわち、人々の孤独・孤立の拡大が、自由・平等・民主主義にとって極めて脅威であると警鐘を鳴らしております。

各省庁においても、孤独・孤立に関係する施策は、本日御紹介いただいたもの以外にも多数あると思っております。本日御出席いただきました皆様におかれましては、それぞれの担当分野において、孤独・孤立に悩まれている、不安に思っている皆様のために、いま一度何ができるかぜひ御検討をお願いするとともに、できることから着手いただけるよう御協力をお願いいたします。

本日はこれで閉会したいと思いますですが、次回の日程につきましては、後日、改めて調整をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

○三ッ林内閣府副大臣 以上をもちまして、本日の連絡調整会議を終了させていただきたいと思っております。

本日は、ありがとうございました。